



五戸町の中心街

(1955 (昭和30) 年ころ・県史編さんグループ所蔵)

奥州街道の宿場町であった五戸は、近代以前から流通の要所であった。町制施行も1915 (大正4) 年11月1日。市制町村制の施行当初から町だった八戸と

三戸を除けば、三戸郡内で最も早かった。

だが、その割に五戸町は鉄道に縁がなかった。そのため同町の事業家だった三浦善蔵が、1926 (大正

15) 年に五戸電気鉄道株式会社を設立し、鉄道建設に乗り出した。まず尻内 (現八戸) から五戸まで鉄道を敷き、次に五戸から秋田県の毛馬内 (現十和田南) と、尻内から八戸 (現本八戸) までを延伸し、最終的に八戸と秋田をつなぐ本州横断鉄道を実現しようとしたのである。

坂の町

五戸の流通史

中園 裕

(県民生活文化課)

県史編さんグループ 主幹

しかし、第一次世界大戦

後の不景気や昭和金融恐慌

などで、鉄道建設の資本金

が中々集まらなかった。路

線の敷設をめぐる陳情や争

いで株主総会も紛糾が続い

た。建設に着手したのは

1928 (昭和3) 年から

で、2年後にようやく開通

している。

五戸電鉄は当初電車を走

らせる予定だったが、資金

難と建設費の都合からガソ

リンカーを使った。その後

五戸鉄道、南部鉄道と名称

を変更し、毛馬内までの建

設を試みるが、戦時体制の

敗戦となった。

敗戦後の1946 (昭和

21) 年、南部鉄道は八戸延

長線の建設に着手する。尻